

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170401780		
法人名	株式会社 Human-system Japan		
事業所名	グループホーム 自由の大地		
所在地	札幌市手稲区稲穂3条2丁目11番7号		
自己評価作成日	平成23年8月15日	評価結果市町村受理日	平成23年10月20日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170401780&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3番地北1条ビル3階
訪問調査日	平成23年9月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

現在は特に利用者様の希望や、心身の状態に応じた外出支援に力を入れています。ショッピング、パチンコ等の趣味を持たれている方や公園や自然の中をゆっくり散歩したい方など、自分の嗜好に添った自由な生活を送れるよう職員同士話し合い、一丸となり支援しています。施設環境が良く、その環境を維持していくため、会社全体で整備に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは、国道5号線沿いの高台に立地し、窓からは街並みが眺望でき、季節の移ろいや夜景が利用者に安らぎを与えています。広々とした造りのホーム内には和室を設け、行事や家族来訪時等に使用しています。開設5年が経過し、地域住民の方々と積極的に関わりを持ち、交流も徐々に広がりを見せています。職員の異動も殆どなく、人間関係も良好な中、専門的な知識を習得し、実践に結びつけている職員の姿に、家族からは感謝の言葉が述べられています。理念の一節である「利用者の尊厳と自由」を大切に、日々ケアサービスに邁進している「グループホーム自由の大地」です。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	主たる理念を三分割にし、事務所に掲示し実践するよう日々努力している。	地域密着型サービスの意義や役割を踏まえた理念の見直しが行われ、職員全員の意見が反映された文言を追加しています。会議等で、理念に沿ったケアサービスの確認がされています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議や避難訓練への参加を町内会等呼びかけ、協力体制の構築を計っている。	挨拶はもとより、小学校、町内会行事への参加、ボランティア受け入れ、商業施設利用等で、地域住民の方々と交流しています。ホームの菜園作業や避難訓練、行事にも参加をいただいています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症勉強会やAED使用法の講演等を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	本年度より2ヶ月に一回、年6回の開催とし、より多くの報告、話し合いがなされ、サービスを向上させるべく努めている。	年6回の開催を計画し、ホームの運営状況報告に加え、防災体制、自己・外部評価の公表等が協議され、表出された意見や助言を運営に活かしています。	会議には、毎回3家族以上の参加がありますが、地域住民の方々への幅広い参加要請により、ホームの質向上や、理解に繋がる取り組みに期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市や区が開催する「管理者会議」・「ふれあいフェスティバル」等に必ず参加しつつも相談、協力出来る体制を築いている。	行政とは、管理者会議や、行政主催の行事への参加、相互の情報提供、さらにホームの課題に対して助言や指導をいただき、質向上に繋がっています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についてカンファレンスを開き、冊子などを用いて理解を深めている。玄関の施錠は夜間帯のみ行っている。	身体状況により、ベット柵を使用する段階で、身体拘束廃止委員会を発足、外部・内部研修に加え、ホーム独自のマニュアルを作成し、禁止の対象となる具体的な行為への理解を深めています。玄関のみ、夜間は施錠しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止、言葉の虐待防止について理解し、注意、防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等により学ぶ機会を持つ職員もいるが、代表が全体会議の中で勉強会を開き学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退居の際は管理者が丁寧に説明し、理解と同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や意見箱を用い、利用者や家族の意見を汲み取れるよう努めている。	日々の関わりから、利用者の要望を把握しています。家族からは、アイデアボックスの設置、来訪時、電話、ケアプラン作成時等で意見を収集し、課題は、迅速に具体策を検討しています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議、フロア会議の中で活発な意見交換がなされている。	代表者や管理者は、日常的に会議や交流会等で、職員の要望や意見の把握に努めています。法人負担による実践者研修への随時参加の要望を受け入れています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得や研修参加を積極的にできるよう支援している。休みも希望通り取れている。処遇改善交付金を利用している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修、内部研修を用い職員の知識・技術向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に管理者会議やグループホーム協議会に出席している。手稲区のほかのグループホームとの職員交流会を予定している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人、今まで利用されていた他事業所、医療機関、家族との連携、安心できる関係づくりに努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前の話し合いを大切にし、要望を傾聴し、面会時にも意向を伺い、信頼関係に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前に十分な話し合い、本人に合ったサービスを提供できるよう支援している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として、家事行為や趣味活動まで、職員が教わる立場となり、一緒に行っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	レクリエーション、行事に参加を呼び掛け楽しまれたり、面会時、その他に本人の状況、生活をお伝えし、共に支援体制を築けるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話、面会、外出等、ご本人の好まれている事を把握するよう努め、支援している。	利用以前に親交のあった方々や、馴染みの場所を把握し、外出や手紙、電話、訪問受け入れ等で、途切れないように交流支援に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入り、会話やレクリエーションを行う事で、利用者間の円満な関係作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院で退所された方のお見舞いや訃報の際は葬儀に参列している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族からの要望を聴き、叶えられるよう努めている。	生活歴や家族からの情報を参考に、会話や表情、仕草から、利用者が何を望んでいるかを推し量り、思いを汲み取るよう努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族・親戚からの情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活を把握し、したい事、できる事をしていただくよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族、医療機関から要望、意見を聴き、職員間で話し合い計画作成している。	利用者、家族の要望を把握し、医療関係者からの意見を参考に、職員全員で利用者本位の介護計画を作成しています。3ヵ月毎の評価や状態変化時には計画を見直しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	計画、実行、ケアする上での問題点等、その都度話し合っている。記録の書き方の勉強会も行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況により、病院の送迎、買い物の同行・代行を行い支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア・消防等の地域資源と協力している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけの医師による月2回の往診と24時間連絡可能な体制を取っている。また、歯科往診と歯科衛生士による口腔ケアも毎週のように行っている。	利用者、家族の希望を尊重し、かかりつけ医の受診支援や協力医療機関による訪問診療支援を行い、情報は関係者の共有としています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護を毎週受けており、日常の気づき、変化について気軽に相談出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関との連絡を密にして、早めに対応できるよう心がけている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族にホームでの対応出来る最大のケアについて説明している。また、かかりつけ医とも密に連携を図っている。	重度化や終末期に於ける指針を説明し、同意書をいただいています。看取りに近い経験はありますが、関係者と話し合い、医療機関での対応になっています。	詳細なマニュアルを作成し、急変時には、家族、医療関係者と段階的に協議する態勢を整えています。が、終末期に向けての、更なる知識や技術習得の取り組みに期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防の協力を得て救急救命の研修を行なっている。また、緊急時には、わかりやすい緊急時マニュアルを作成し、見やすい場所に掲示している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災については消防との協力を得て、講習会を行っている。その時には地域の方に声かけし参加していただいている。	消防署、地域住民の方々の協力をいただき、日中・夜間想定避難訓練を年2回実施し、課題は今回の訓練に活かしています。ほかのホームと災害時を含めた連携を予定しています。	広域避難場所のほかに、室内の一時避難場所、中・長期にわたる避難場所の確保、災害備蓄品の補充等の取り組みに期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	フロア会議や勉強会で尊厳の保持について話し合い、利用者に合わせた対応をしている。	利用者の人柄を把握し、尊厳を念頭に一人ひとりに合った対応に努めています。馴れによる不用意な言葉使いが見られた場合は、職員間で注意し合っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が自己決定しやすいよう声かけし、行えるよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活においては一緒に行っているが、本人の意思を尊重して自分のペースで生活していただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1度、理・美容師により散髪、顔剃り、毛染めをしている。化粧品も同行して買いに行き、希望に添えるようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員が同じ食卓につき、談話しながら同じ食事を食べている。配膳や片づけも出来る方には参加していただいている。	栄養バランスや彩り、利用者の好みに配慮した献立により、食材の調達や一連の作業を協働し、会話しながらゆったりとした時間を過ごしています。外での食事もしみじみになっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材を担当している職員が栄養バランスを考えメニューを決めている。食事量、水分量はトータルを記載し共有している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声かけ、見守りにて口腔ケアを実施している。歯科衛生士から個別の指導をしていただき実行している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にてパターンを把握しトイレ誘導をしている。排泄のサインを注意深く見守り誘導を行い汚染しないようにしている。	利用者の排泄パターンを職員は共有し、言葉かけや誘導により、トイレでの排泄支援に努め、衛生用品の軽減に繋がっています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分や乳性品の摂取に努めている。体操、廊下の歩行などの運動を働きかけている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	時間帯は職員の配置により、昼間に限られる。順番に入らせていただいているか、希望に添えるように努めている。	同性介助の下、午後の時間帯に週3回の入浴支援を実施していますが、回数は柔軟に対応しています。利用者の状態に応じ、適時、清潔保持に努めています。利用者同士で入浴することもあります。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促進し、生活のリズムを整えるように努めている。夜間は室温調整や照明調整を行い良眠に繋げている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬品説明書をファイルにし、職員が内容を把握できるようにしている。内服確認や全職員がチェックできるシステムも確立している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	希望される事、出来る事を把握し、お手伝いやゲーム等、喜ばれる事が多くなるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、買い物、祭りへの参加等、季節や希望に応じて外出を支援している。歩行困難な方も、車椅子、介護車両にて支援している。	利用者の意向に沿い、散歩、畑作業、買い物、美容室、外食等の支援を行い、更に、祭りや花見等の外出行事も企画し、気分転換に繋げています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金はお預かりしている場合が多いが、買い物時はお渡しして支払が出来るよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の許可の取れている所には自由に電話を掛けている。また、毎年年賀状も書いている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングはゆったりとくつろげるよう配慮している。壁などは季節感のある花や飾りで快適に過ごせるようにしている。	高台に立地しているホームの居間からは、街並みが展望でき、採光も十分で広々とした造りの共有空間は、清潔感、開放感に溢れています。ホームから見渡せる風景や季節毎に変化のある食事等で、季節の移ろいが身近に感じられます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ほぼ全ての利用者が共有リビングで自分の居場所を持っている。廊下の椅子にて歩行の運動、休憩所として使っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	これまで使っていた馴染みの家具等を置き、居心地良く過ごしていただいている。	設置されているクローゼットに生活用品が収納され、すっきりとした佇まいの居室には、利用者や家族の意向が反映された家具や調度品が配置されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりやエレベーターを用い、安全な立ち上がり、移動、歩行ができるよう支援する。		